

# 診療看護師介入による血栓回収療法後の 在院日数短縮への影響

---

川崎幸病院 脳神経外科

- 和出南, 成清道久, 壺井祥史, 牧野英彬, 野上諒,  
山本康平, 大橋聡, 長崎弘和, 松岡秀典

# 背景

---

- ✓ 近年、血栓回収療法の適応拡大に伴い治療件数は増加傾向であり、脳卒中診療を行う病院は新規患者を受け入れるため、在院日数短縮や病床確保が求められている。
- ✓ 重症患者では、術後合併症や併存症の増悪をきたす症例も多く、在院日数が延長する可能性がある。

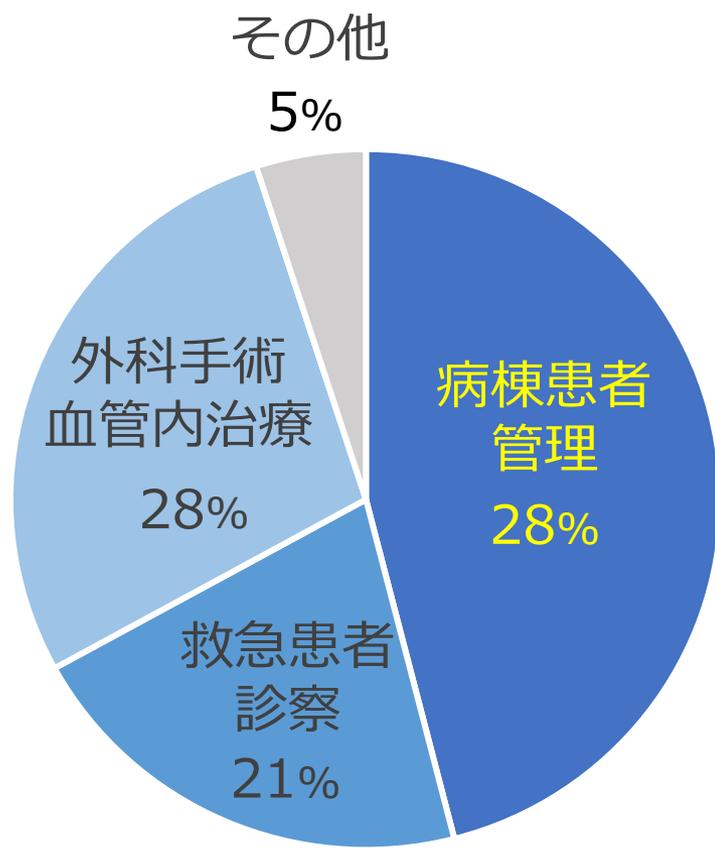
# 目的

---

- ✓ 当院では2018年より脳神経外科に診療看護師(以下 NP)を配置し、治療の助手だけでなく、術後管理から退院調整まで幅広く臨床に携わっている。
- ✓ 今回、血栓回収療法後の退院調整に関して、NPの役割と患者の在院日数について検討したため、報告する。

# 脳神経外科におけるNPの日常業務

---



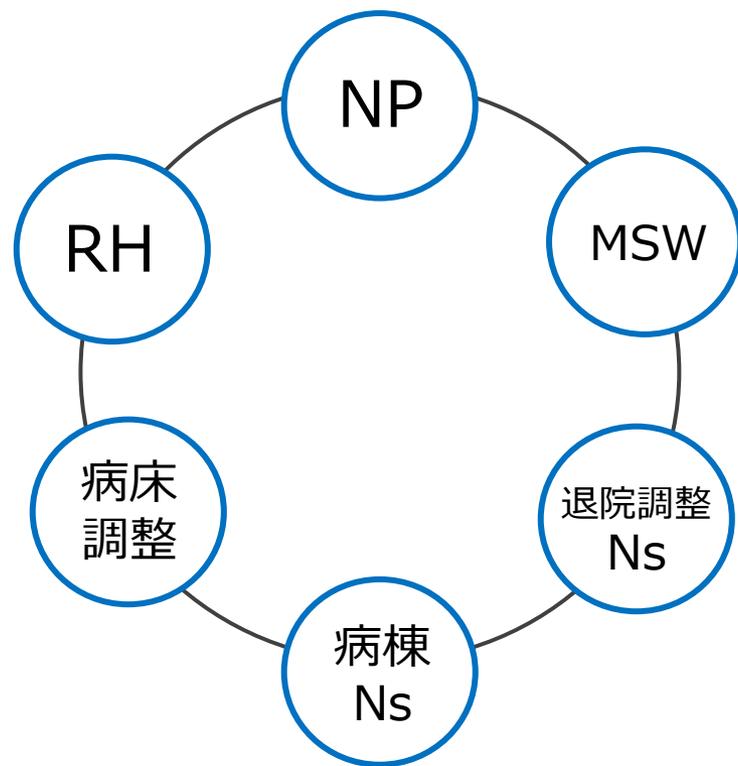
✓ NPの業務の大半は、手術や外来業務で多忙な医師の代わりに、病棟患者の管理や退院調整などの業務である。

✓ 退院調整の業務としては、他職種カンファレンスの参加や紹介状の作成、退院時期の調整などである。

# 退院調整カンファレンス

---

- ✓ 入院患者に関わる全部署のスタッフが集まり、週1-2回開催している。
- ✓ 入院患者の病状、治療方針、リハビリの状況、家族の支援体制などの情報を共有し、最善な転機先を検討する。



# 方法

---

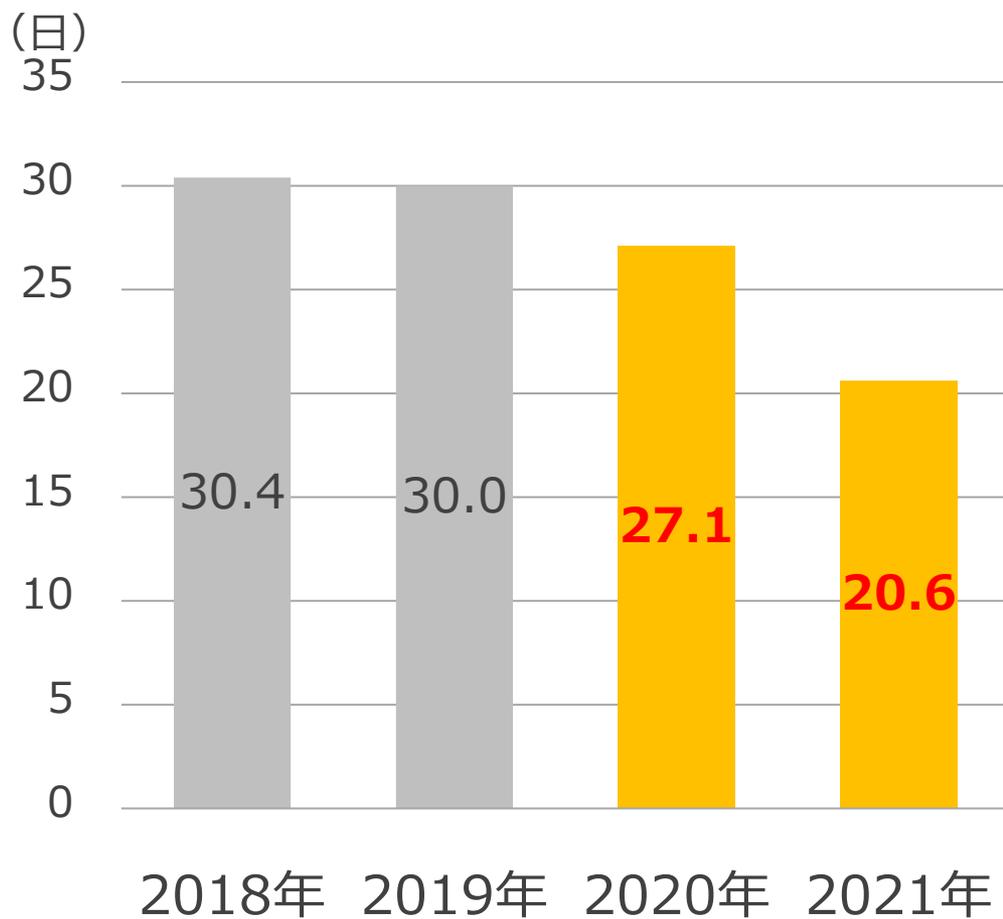
【期間】 2018年1月-2021年12月

【対象】 急性期脳梗塞にて血栓回収療法を受けた患者

【調査内容】 血栓回収療法症例における在院日数を調査し、  
各年毎に比較検討した。

# 結果

## 血栓回収療法患者の在院日数



2021年は

**9.8** 日短縮

# 考察—退院調整におけるNP介入—

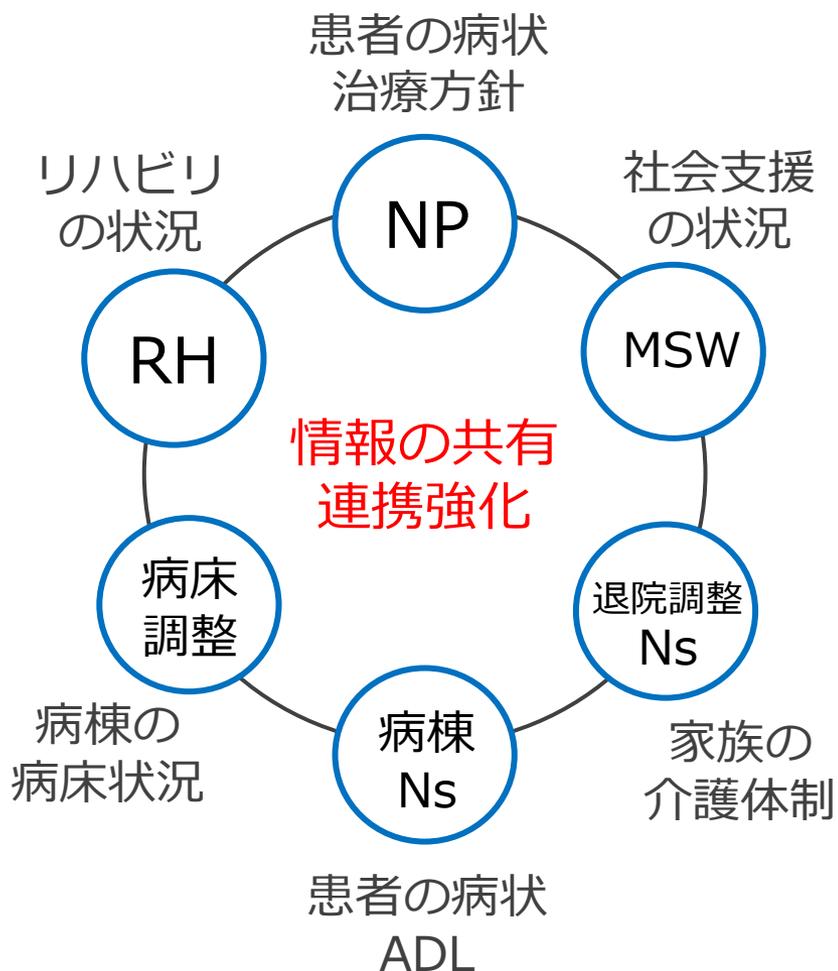
---

- ✓ NPは、日頃より医師と治療だけでなく、カンファレンスや回診にて治療方針などの患者情報を日頃より主治医と共有できている。
- ✓ 緊急手術で退院調整カンファレンス参加が不安定になる医師と異なり、NPは優先業務として確実に参加できる。



医師からNPに退院調整業務をタスクシフト可能だった

# 考察—退院調整カンファレンスにおける効果—



- ✓ 退院に対する意識が高まり、入院日より各職種が積極的に情報収集を行うようになった。
- ✓ 他職種で情報共有することにより最適な転機先を検討することが可能となった。



スムーズな転院調整につながった

# 結語

---

- ✓ 退院調整にNPが介入したことにより治療後の在院日数を短縮させることができた.
- ✓ 退院調整では、他職種で情報を共有し、連携することによりスムーズな調整につなげることができると考えた.

# 日本脳神経血管内治療学会 利益相反の開示

筆頭発表者名：和出南

演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある  
企業などはありません。